

## 高次脳機能障害という言葉はご存じですか？

「高次脳機能障害」という言葉を耳にしたことはありますか？

家族や身近な方で、交通事故や脳血管疾患などで脳に障害を受けた後、身体機能は良くなったのに今までの生活が上手く遂行できなくなってしまったという方はいませんか？それは高次脳機能障害かもしれません。

「障害」という言葉を聞くと、脳血管疾患に伴う身体機能の障害や、精神疾患に伴う精神障害などを思い浮かべる方が多いと思います。しかし、今回表題に掲げた高次脳機能障害という言葉の認知度は低く、具体的にどのような障害なのかほとんど知られていないのが実情だと思います。

高次脳機能障害は脳へのダメージが原因で、「思考」「言語」「記憶」「注意」「学習」などの知的な機能に障害が起こり、新しいことが覚えられない・集中力がなくなる・いつもはできていたことができなくなる、道に迷う、怒りやすくなる、などの症状が現れます。このような症状を残す状態が高次脳機能障害だといわれており、日常・社会生活を遂行する上で影響を与えることとなります。しかし、高次脳機能障害の人の症状・サインは一人ひとり異なり、環境や条件によって現れ方も変わってしまうため、周囲を困惑させる事もあります。

高次脳機能障害は、前述の通り身体に現れる障害とは異なり、見て分かるものではありません。外見では判断がしにくいいため別名「見えない障害・隠れた障害」とも言われており、一見しただけでは周囲の人には判断できません。そこがこの障害の難しいところです。また、自分自身も障害に気付きにくいというのが特徴で、障害を知らない人から誤解を受けやすく、人間関係やトラブルにつながることも多いことが日常・社会生活を難しくする要因の一つでもあります。しかし、高次脳機能障害は、周囲のサポートや理解を得られれば症状が緩和されることもあるため、周囲が気付くためにはまずはこの障害を知っていただけたらと思います。

以前に比べれば、テレビなどで紹介されることもあり、世の中の認知度も少し上がってきているように思いますが、まだまだ知られていないのが実情ではないでしょうか。社会の中でこの障害のために困惑されている方がいる、この機会に高次脳機能障害についての興味と理解をもっていただければ幸いです。

【リハビリテーション技術科作業療法士 小池 彩香】

